2013年(平成25年)

第70号

(10月1日)

平安月報

The HEIAN monthly report

発 行 所:立正佼成会 京都教会

発行責任者:涉外部長 宮地啓安編集委員長:涉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条蹴上

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

~親子で取り組めたゆめポッケ~ 我が子の成長にも喜び

紛争や対立で傷ついた子供たちに手作りのポッケを送る「ゆめポッケ」(主管=青年グループ・社会貢献グループ)のキャンペーン期間が8月31日、終了しました。6月1日からの期間中、全国の教会では、配布地域の現状を知るための事前学習や小・中学生による中身の収集、メッセージカードの作成、家庭でのポッケづくりなどが行われました。

全国の教会で箱詰め作業や発送式が行われ、寄せられたポッケは今後、アゼルバイジャン、アフガニスタン、レバノン、パレスチナ・ガザ地区、フィリピン・ミンダナオ島に輸送され、協力団体を通じて厳しい状況下で暮らす子供たちに手渡される予定です。

京都教会でも9月1日の教会朔日参り式典の中で、 1 組の親子から今年のゆめポッケ活動報告がありま した。お子さんは自分の好きな車のおもちゃを入れ たこと、来年も自分の好きなものをたくさん入れて 作ってあげたいと発表しました。母親からは家族で平和について話し合えたこと、子供が「自分のお小遣いからプレゼントを買う」と言ったこと、人を思いやる気持ちが育ってくれていることに感謝し、ゆめポッケを手にする子供の笑顔と我が子の取り組む笑顔が重な

って見えたとの発表がありました。

集められた234個のポッケは会員が見守る中、トラックに積み込まれ東京へ発送されました。







故人への思いを込めて宗派を超えて共に祈る ~京都市深草墓園・秋季慰霊祭~

9月14日(土)、京都市深草墓園において秋季慰霊祭が開催されました。毎年春と秋に開催されているこの式典は本年も京都市主催の慰霊式典と遺族会主催の慰霊供養が行われました。

京都市からは門川市長、市議会橋村議長、隠塚副議 長が参列され、京都府宗教連盟からは荒木委員長、佐 藤教会長など関係者が出席しました。



今秋の慰霊供養は本門 法華宗大本山妙蓮寺が奉 仕されました。同寺の松下 猊下お導師のもと、厳かに ご供養をいただきました。 読経にあわせて来賓、参拝 者の焼香が行われ、諸霊の

安らかな眠りを祈り、先人が築いたこの国の平和を継 承していくことを誓い合いました。

深草墓園は、静かな深草の丘陵地に、従来の墓地形式ではなく納骨堂形式の「市民のお墓」として、昭和33年7月に開設されました。

豊かな自然に満ち溢れたこの安住の地には,多くの 先人たちが宗教宗派の別なく合祀されています。





や芸術を堪能したり、▼自然にふれたり、 外う多不出た。 当れげ言にばばい うないも できまは るだのめ 動の がですが は「この# のはない う のに は熱 U か運 す 季節の移り まい。思い これからのな 中か 人天間を す動 るには最 な 天 化を否定する うのもに 愚痴 教 ます。 は恨 ない(ま 化 い出 を が それで しなら 受 る 手 ま て E 時 $\overline{}$ す お 変

時々刻々

今月のことば ~苦は自らつくる~

仲秋に入り気温も徐々に下がり、爽涼の好季節となりました。豊穣の礼を捧げる祭祀、神嘗祭をはじめ、収穫を祝う秋祭が盛んに催される月でもあります。また、運動会などの吉事も開かれるといった楽しみが沢山あり、日々それぞれ努力されていることが実る有り難い月を迎えました。

さて、機関誌『佼成』10月号の会長先生ご法話は、 「苦は自らつくる」であります。

冒頭に、「思いどおりにならないことがあると、私 たちは悩んだり苦しんだりします。そんなとき、多く の場合、私たちはその原因を自分以外のもののせいに して、ますます苦悩を深めています。あの人のせいで こうなったとか、あれさえなければよかったのに … …と考え、苦の原因を見失ってしまうのです」と述べ られています。それでは、苦の原因はどこにあるのか、 考えてみましょうということで次のお話に移ります。 法句経の中で釈尊がいわれている「ものごとは心にも とづき、心を主とし、心によってつくり出される。も しも汚れた心で話したり行ったりするならば、苦しみ はその人につき従う」(中村元訳/岩波文庫)の言葉 を通して、自己中心にものごとを見る人間の「心」に 原因があると説かれ、その心の正体は、貪欲、つまり 必要以上に欲する心が苦の要因であるとお話くださ いました。ご法話前段の最後で、「苦悩は他からもた らされるのではなく、じつは自分の内側から生まれて くるようです」との結論へと導いてくださいました。 佼成会では、困った問題が起きたときに、自分に原 京都教会長 佐藤益弘

因があると受けとめてきました。そこから「自分が変われば相手が変わる」と教えて頂いておりますように、「すべては自分」というのが出発点になります。 とても重要なことと思います。

後半のお話では、苦しんだり悩んだりしないために どうすればよいのかについて答えられています。まず 「足るを知る」こと、「自分中心の欲望を少し抑える」 ことと教えていただきました。このことを、表現を変 え、「感謝を忘れず、欲をほどほどに抑えてとらわれ やこだわりをもたないことが、身心ともに楽に生きる 秘訣といえるでしょう」と述べられています。さらに、 苦しみ悩みと同じく、楽も自分の心がつくるものであ ると、先の法句経の対句「ものごとは心にもとづき、 心を主とし、心によってつくり出される。もしも清ら かな心で話したり行なったりするならば、福楽はその 人につき従う」から、教えていただきました。幸福に なるのも、不幸になるのも、すべて自分の心の持ち方 に依って決まるものと、あらためて学ばせていただき ました。そして、ものの見方がありのまま見られ、受 けとめられれば、「たとえ厳しい現実も楽の種になる」 と、ご法話は結ばれています。

たとえ、メールを送信しても返信が来なかったり、 挨拶しても相手が無反応であったりする場合でも、自 らの心を汚さず、清らかにする努力が大事だと思いま す。そういう心になれば、私もそうした行為を過去に したことがあったではないかと思い、ものごとをあり のまま受け容れることができそうです。

~第42回かめおかこころ塾~ ~苦に寄り添うことの大切さを学んだ~

9月14日、ガレリアかめおかにおいて第42回かめおかこころ塾が開催されました。

中瀬真弓氏(社会福祉法人京都いのちの電話研究担当主事)が「京都いのちの電話~共に在るあなたと私~」と題し講演を行いました。

1953年、イギリスロンドンで始まったいのちの電話は 1971年に日本でも始まり、現在は全国 24時間対応で年間約76万件の相談を受け付けているといいます。





いのちの電話では苦しみをなぐさめるのではなく、 共に苦しむ(共苦)が大切だと話されました。「死にたい」という電話の相手に対しても、腹を据えてその苦 しみも永遠に続くものではないとの信念で、過去に関 わられた実例をもとに述べられました。

また自分自身を知ることが大切であり、そのツールとして「私マップ」の製作を参加者も体験しました。 ゲームさながらに一同は楽しく新たな自分自身の発見 に驚いた様子でした。





∼京滋合同で初の議員交流会 高齢化社会における地域の絆づくりのあり方を学ぶ

9月14日、京都普門館において京都府・滋賀県の地方議員・元国会議員16名が参加して、京都・滋賀合同議員交流会が開催されました。京都・滋賀の両教会では、議会や党派を超えて相互啓発を図る勉強会を定期的に開催しています。今回、初めて府県を超えた交流する機会が設けられました。

京都佼成議員懇話会幹事長の京都府議会議員・植田 喜裕氏と滋賀県から近江八幡市議会議員の山本英夫氏 のあいさつに引き続き、講演会が行われました。

長岡京市介護家族の会の上岸敏則氏から「高齢化社会における地域の絆づくり」と題して『認知症サポーター養成講座』が行われました。認知症の父親を在宅介護さえた経験と、家族の会で介護する人を支える活動に取り組んでおられる上岸氏から、「認知症に対する正しい理解」と「認知症介護のあり方」について実体験に基づいた話を学ぶことができました。

講演に続いて、同家族の会のメンバーであり、認知 症の奥さんの介護をされている三好氏が介護の日々の

9月14日、京都普門館において京都府・滋賀県の 出来事やその時の介護者としての気持ちを切々と訴え 防議員・元国会議員16名が参加して、京都・滋賀 ました。

その後、昼食懇談会を行い、各議員からの質疑や意見交流が行われました。参加した議員さんたちは、認知症への関心は高く、今回の講演は中身の濃いものだったと評価されていました。上岸氏からは「介護にはお金がかかります。その点を政策に盛り込んでもらいたい」「家族だけでは限界があり、地域での見守りが必要です。そのためには、ご近所の人とのあいさつからです」と述べられました。





講演会(普門館会議室にて)

昼食懇親会(研修室にて)

~心温まる シルバーフェスティバル~

9月15日午後、教会体育館においてシルバーフェスティバルが開催され、シルバーの方、お祝いをする方、約300名が食事を取りながら楽しい時間を過ごしました。

オープニングで佐藤教会長が清水次郎長に扮して登場、舞台上で歌を披露して、会場内を和ませました。続いて、少年部・学生部のE-MAXによるダンス・ありがとうメッセージの発表、コールコスモスや各支部の合唱が行われました。

その後も、支部代表のハーモニカ吹奏や佼成フォルクローレ同好会による演奏がありました。最後に小田 原節で体を動かすなど、盛りだくさんの内容でした。



シルバーの方々は皆さん現役の第一線からは退いておられますが、まだまだ元気です。参加したシルバーの方々は次回も元気で再会することを誓い合っていました。





絆を深めた一泊二日 ~伏見支部青牡年学林~

9月21、22日に京都教会研修室において伏見支部 青年壮年学林が開催され、地元の議員さんはじめ約 30名の参加がありました。

21 日の夜は懇親会で親睦を深めました。翌 22 日早朝から教会の近くのインクラインと周辺の清掃奉仕を行いました。その後の研修を通して、初心に帰ることの大切さを学びました。





(お知らせ) 毛布の配布先が決定

今年の「アフリカへ毛布をおくる運動」では、全国から26,735 枚集められました。毛布の配付国が、このほど、同運動推進委員会から発表されました。(下表)

なお、海外輸送協力金として 27,066,196 円(8月31日現在)が寄せられ、毛布の輸送費として活用されます。

現地配布パートナー団体	配布国	対象者	配布枚数
アフリカ開発緊急機構	ケニア	ソマリア難民、孤児、寡婦等	15, 120枚
マラウイ赤十字社	マラウイ	高齢者、孤児、エイズ患者等	6, 720枚
共同体開発キリスト教協会	モザンビーク	エイズ患者、孤児、障害者等	1, 535枚
KULIMA (クリマ)	モザンビーク	エイズ患者、孤児等	3, 360枚

「世界平和とWCRPの貢献」

《人類の奇跡》

1970年10月、日本の京都、国立京都国際会館では、かつてない光景が展開されていた。万人の共通の願いである世界恒久平和の実現を求め、39ヶ国から世界諸宗教の指導者300余人が一堂に会して、宗教史上未曽有の「第1回世界宗教者平和会議世界大会」が開催されたのである。

20 世紀、人類は二つの世界大戦を経験した。戦争は罪のない市民を殺戮し、都市や貴重な文化財を破壊するなど、世界の各地に甚大な被害をもたらした。とりわけ広島、長崎の原爆による惨禍は想像をはるかに超えるものであった。

京都会議の基調テーマは「非武装・開発・人権」である。いずれも世界平和の実現にとって、もっとも緊急を要する地球的課題であり、国連をはじめ多くの国際機関や各国が国際政治のレベルで対応すべき問題であると共に、国益を超えたより高い次元での人類愛、より深い精神的洞察が求められる問題である。

京都会議は、これらの平和を脅かす現実の諸問題に対して、宗教者としていかに取り組み、問題解決のための実践的な方策を見出そうとするものであった。

参加者は「宗教別、地域別、国別に偏りのないこと、 社会的に影響の大きい宗教者であること」を基準と し、宗教人口統計基づいて宗教別・国別の代表者が選 定された。発題者には宗教者をはじめ各分野の専門 家、科学者、政治家を含めて適任者が選ばれた。

ブラジルから参加したヘルダー・ペソア・カマラ大 司教は、「いま私たちがここに集まっている事実は、 主が成し遂げたもうた奇跡です。人類の 20%の人間 が世界の資源の 80%を所有し、正義と愛の道をたど ることが出来ないでいます。正義なくして平和は存在 しません」と言われた。

午前9時半、静寂の中に開会を告げる鐘の音が高らかに響き渡った。岸信宏浄土門主の導師によって、開会の祈りが厳かに執り行われた。続いて、会議の名誉総裁を務める大谷光照浄土真宗本願寺派門主が「世界で原爆の惨禍を受けた唯一の国であり、平和憲法を持

つ日本は、この会議を開くにふさわしい所です。今や 人類の運命は一つであり、平和な世界を築くために懸 命の努力を払わなければならない時です」と開会の挨 拶を力強く述べた。

全体会議では、世界的指導者が次々に登壇し、問題 提起の講演を行った。ノーベル物理学賞受賞者の湯川 秀樹博士は「核兵器の存在そのものが人類の生存に対 する脅威であり。核兵器の廃絶と共に、いかなる国の いかなる兵器も撤廃すべきです」と、完全全面軍縮の 必要性を力説した。

《歴史に残る京都宣言》

人間関係の出発点は、何よりまず出会うことです。 出会いがあってこそ語り合いができる。語り合って初めて、お互いの理解が生まれる。本当にお互いを理解 することによって信頼が生まれ、愛情がわいてくる。 お互いに心から信頼し合い、愛情で結ばれるようになってこそ協力体制ができあがるのである。それは、いかにも遠回りの道のように見えるが、これこそが平和 づくりの正道ではないでしょうか。

宗教上の習慣が違えば考え方も感じ方も違って当然である。しかも、それぞれ国情も異なる。「そうした宗教者が集まって非武装・開発・人権などという具体的な問題を論じあうなど、無謀もはなはだしい。対話など到底不可能だ」と危ぶむ人も少なくなかった。しかし、会議の合間のコーヒーブレイクのひとときや、テーブルを一つにしての食事の席では、打ち解けた意見交換が続き、笑顔で握手を交わす姿がそこでもここでも見られた。「この会議は、成功まちがいなしだ!!」委員会のメンバーの意見は一致した。

「我々は、しばしば、われらの宗教的理想と平和への責任とに背いてきたことを、宗教者として謙虚にそして懺悔の思いを持って告白する。平和の大義に背いてきたのは宗教ではなく、宗教者である。宗教に対するこの背反は、改めることができるし、また改めなければならない」京都宣言は、世界の平和に対して宗教者は共同責任を持たなければならない、と自らを反省し、世界に表明した歴史的な宣言であった。(つづく)

渉外部からのお知らせ

●10月の主要行事予定

10月 1日 朔日参り、布薩の日9:00~4日 開祖さま入寂会9:00~同 夜間式典19:00~10日 脇祖さまご命日9:00~13日 日蓮聖人遠忌法要9:00~15日 釈迦牟尼仏ご命日9:00~

20日 お会式・一乗祭(本部)

●メッセージ

先日、ある会員さん宅で一周忌のご供養があり参拝させて頂きました。導師は佐藤教会長さんで、脇導師をはじめ参拝者は皆お世話になった当時の青年部員が集いました。当日に都合が付かない人は事前に参拝をしていたようです。当時、一人暮らしをしていた青年は恋愛の話や就職のことなど何でも相談し、まさに親代わりの存在でした。ありがとうございました。